令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大戸小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)自分の考えをもち、自己調整を行いながら学ぶことのできる資質・能力 (2)学習で学んだことを自らの生活に生かそうとする資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)1人1台端末を活用した児童主体の授業の実施と、学習の成果と課題を顧みるためのふり返りの時間の設定。(単元に1回程度) (2)児童が自分の考えを整理・分析・共有し、主体的に学ぶ力を育むための、必要感のある学習課題や学びの場の設定。(単元に1回程度)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語では「情報の整理と活用力」が大きく伸長した。R8の必要な情報を書き抜く問題は正答率が高く、R7からの「書くこと」の向上（前年比＋2%）を継続・発展させている。一方で、漢字を文の中で正しく使う問題には課題が見られた。算数では帯グラフの読み取りの正答率が高い一方、異分母分数の大小比較と理由の記述問題の正答率は低く、根拠を明確に説明する表現力に課題がある。前年度から継続して、個別最適な学びによる知識の定着と論理的に記述する力の育成が求められる。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	「分からない時に自分で学び方を工夫する」児童はR7の90%以上からR8の91.8%へと高い水準で安定し、主体的な学びが定着している。また93.2%が「学びを生活に生かせる」と回答し、学んだことを活用しようとする意識も高い。日常的なICT活用（84.9%）が個別最適な学びを支え、情報を収集・整理する力に強みがある。一方で、算数等の正答率から、思考の過程を筋道立てて相手に伝える表現力には個人差があり、更なる伸長の余地があると考えられる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	1人1台端末を活用した児童主体の授業と、単元ごとの振り返りの時間を継続的に設定している。質問調査では、9割以上の児童が対話を通じた学びの深まりや、自らの学びの調整を実感しており、「自己調整しながら学ぶ力」の育成が進んでいる。デジタルドリルによる反復学習も習慣化してきている。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	調査結果で課題となった「算数の記述力」や、高い水準となった「情報活用能力」の個人差に対応するため、AIドリル等を活用した個別最適な学びの時間を週1回以上確保し、定着の徹底を図る。また筋道立てて考え、表現する力を高めるため、児童が自分の考えを共有・分析する場面において、学習目標や評価基準をより具体的に明示する指導場面を取り入れていく。	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）